

令和6年度
国分寺市障害者地域自立支援協議会
専門部会 中間活動報告書

相談支援部会

就労支援部会

精神保健福祉部会

令和6年度 相談支援部会 中間活動報告書

今年度部会の主な取組予定

- ◆ 相談支援体制の課題への取組の検討
- ◆ 他分野との連携の強化に向けての取組の検討
- ◆ 災害対策の取組の活用

活動内容及びスケジュールなど

	日にち	内容	備考
第 1 回	5月 28 日(火)	・相談支援体制の充実・強化について ・災害対策について(「障害のある方向けの防災情報まとめサイト」の周知と活用について) ・意思決定支援について ・都外施設を含む施設入所者の地域移行について	
第 2 回	9月 17 日(火)	・相談支援事業所連絡会の実施報告 ・障害児通所支援事業所連絡会の実施報告 ・地域体制強化共同支援の実施報告 ・重層的支援体制整備事業の取組状況について ・情報提供及び情報共有	
相談支援事業所 連絡会	4月 18 日(木) 5月 16 日(木) 6月 19 日(水) 7月 18 日(木) 8月 29 日(木) 9月 19 日(木)	・相談支援体制整備のための方策(新規計画相談依頼への対応フロー、各プロジェクトチームの取組等) ・防災まとめサイトの活用 ・主任相談支援専門員連絡会の発足について ・相談支援に関する知識、技術のブラッシュアップ ・相談支援事業所間の連携、情報共有について ・ブラッシュアップ研修 - 国分寺市社会福祉協議会の事業について - 報酬改定及び支給決定基準等について - サービス等利用計画の書き方について - など	・毎月 1 回開催
障害児通所 支援事業所 連絡会	7月9日(火)	・報酬改定に伴う影響について ・欠席枠について(欠席が多い方への対応、欠席枠の補い方など) ・利用者の年齢層のバランスについて ・災害、防犯対策について(近隣住民や行政との連携) ・障害児通所支援事業所間の情報共有	・年 2 回開催

成果・活動から見てきたことなど

- ・相談支援体制とは、計画相談のみならず、それぞれの支援機関で日々行われていることである。各機関の取組を活かし、連携していくことで、利用者がたらい回しされることなく必要な支援に確実に繋がることのできるよう、支援体制整備に取り組んでいきたい。
- ・自立支援協議会で当事者団体の方に相談支援の「質」に求めることについて伺い、「本人の希望が叶うように、色々な選択肢が示され、相談をしながら計画が立てられていくことが一番の核になる」との意見をいただいた。今回の報酬改定でも「意思決定支援」が明確に打ち出されており、その点について議論を重ねて、意思決定支援への取組を検討していきたい。
- ・自立支援協議会で意見があった施設入所（知的障害等）の地域移行について、どのような取り組みが必要か検討していきたい。

今後の活動予定

	日にち	内容	備考
第3回	2月 12 日(水)	・相談支援体制の充実・強化について ・災害対策について(「障害のある方向けの防災情報まとめサイト」の周知と活用について) ・意思決定支援について ・都外施設を含む施設入所者の地域移行について ・相談支援事業所連絡会の実施報告 ・障害児通所支援事業所連絡会の実施報告 ・地域体制強化共同支援の実施報告 ・重層的支援体制整備事業の取組状況について ・情報提供及び情報共有	
相談支援事業所 連絡会	10月 17 日(木) 11月 21 日(木) 12月 19 日(木) 1月 17 日(金) 2月 20 日(木) 3月 21 日(金)	・相談支援体制整備のための方策(新規計画相談依頼への対応フロー、各プロジェクトチームの取組等) ・障害福祉と高齢福祉との連携(介護保険サービスへの移行等)について ・教育分野との更なる連携について ・相談支援に関する知識、技術のブラッシュアップ ・相談支援事業所間の連携、情報共有について ・ブラッシュアップ研修 など	・毎月開催
障害児通所 支援事業所 連絡会	1月 29 日(水)	・増加するセルフプランの課題の共有と対応について ・教育分野との更なる連携について ・児童から成人への円滑な移行について ・障害児通所支援事業所間の情報共有	

令和 6 年度 就労支援部会 中間活動報告書

今年度部会の主な取組予定

- ◆ 就労支援に関する地域の課題の掘り起こしと各課題解決のために必要な取組について協議
- ◆ 障害者の法定雇用率引き上げと支援策の強化(週 10～20 時間未満の特定短時間雇用など)についての情報共有及び意見交換について
- ◆ 国分寺障害者施設お仕事ネットワーク 20 周年イベントの企画について
- ◆ 障害者就労施設の販売機会の拡充について

活動内容及びスケジュールなど

	日にち	内容	備考
第1回	5 月 29 日(水)	①各作業部会の取組状況報告 ・国分寺障害者施設お仕事ネットワーク(商業施設での販売会, 東京都共同受注) ・就労支援事業所連絡会	
第2回	8 月 21 日(水)	②今年度の取組の進捗状況の報告や協議等 ・障害者の法定雇用率引き上げと支援策の強化(週 10～20 時間未満の特定短時間雇用など)についての情報共有及び意見交換について ・国分寺障害者施設お仕事ネットワーク 20 周年イベントの企画について ・障害者就労施設の販売機会の拡充について	
国分寺障害者施設お仕事ネットワーク	毎月 1 回 (原則第2木曜日)	＊共同受注に関する進捗状況報告等 ＊価格表を活用した新規受注の開拓 ＊販売会の企画・提案・実施・課題整理 ＊20 周年イベントの企画 ＊就労支援部会から出される課題について協議など	
就労支援事業所連絡会	8 月 13 日(火)	＊関係機関による一般就労支援に関する課題の共有や実習先の開拓等について協議など	＊就労移行支援事業所 4 力所、就労継続支援 B 型事業所 2 事業所、全 6 事業所が参加。

成果・活動から見てきたことなど

- ◆障害者の法定雇用率引き上げと支援策の強化（週 10～20 時間未満の特定短時間雇用など）についての情報共有及び意見交換については、立川公共職業安定所より変更点や障害者雇用の現況について説明していただき、意見交換を行った。また障害福祉課より、一般企業等に就労している方が、就労系の障害福祉サービス事業所を併用して利用できることが法律上、正式に位置付けられたことの説明があった。今後併用することで企業に就職できる方が多く出てくるのであれば、市としても積極的に活用していくことが情報共有され、必要な方が必要なサービスが受けられ、相談する側が相談しやすくなるよう、制度が変わったことの周知をお願いしたいという意見等が挙がった。
- ◆国分寺障害者施設お仕事ネットワーク 20 周年イベントの企画については、3 月に開催予定の内容や会場、周知方法等について、意見交換を行った。
- ◆障害者就労施設の販売機会の拡充については、様々な販売機会についての情報共有が行われた。事業者側がどのような形なら参加しやすいのか、いかに事業所のハードルを下げられるのか、負担を減らせるのかがポイントになると思うといった意見等が挙がった。新庁舎での販売会を行えるよう、手続きを障害福祉課が行っていく予定。
- ◆お仕事ネットワークは、今年度より立川市のキッチンさかえという就労継続支援 B 型の事業所がネットワークに加わった。市外の事業所であっても、加わっていただくことで受注能力が高まるといったプラスの要素もあるので、一緒に活動していくこととなり、現在 13 の法人事業所によるネットワークとなった。
- ◆就労支援事業所連絡会は、就労移行支援事業所に限らず、一般就労を支援する事業所（就労継続支援 B 型）も参加し、各事業所の一般就労に向けた取組状況や課題等の情報共有を行った。支援者または当事者向けの勉強会開催の声があった為、下半期の連絡会にて開催できるよう、意見を集約して開催する予定。
- ◆地域における実習先の開拓については、国分寺市障害者就労支援センターの運営委員会を通じて、就労支援センターと就労支援事業所が地元商店街のイベント（ぶんじハロウィン）の参加を今年度も予定している。顔の見える関係性を築きながら、地域への参加、障害者理解の啓発、実習受入先の開拓などに繋がる取組を行っていかねばと考える。庁内実習等については上半期だけで 4 回開催し、参加延べ人数は例年よりも多い 16 名となった。今後も就職希望者のニーズに応じて、障害福祉課などとも協力しながら実習機会について開拓・調整を図る予定。

今後の活動予定

	日にち	内容	備考
第3回	1 月 15 日(水)	① 各作業部会の取組状況報告 ② 今年度の取組について * 検証と次年度に向けた課題抽出 ③ 次年度の取組について協議	
障害者週間行事 における販売会	11 月 29 日(金) ～12 月5日(木) (予定)	お仕事ネットワーク加盟団体による自主 製品等の販売やクラフト品等のワークショ ップの開催を検討	会場:セレオ国分寺
国分寺障害者 施設お仕事 ネットワーク	毎月 1 回 (原則第2木曜日)	* 共同受注に関する進捗状況報告等 * 価格表を活用した新規受注の開拓 * 販売会の企画・提案・実施・課題整理 * 就労支援部会から出される課題につ いての協議など	
就労支援 事業所連絡会	未定	* 関係機関による一般就労支援に関す る課題の共有や実習先の開拓等につ いて協議など	

令和6年度 精神保健福祉部会 中間活動報告書

今年度部会の主な取組予定

- ◆全体を通じて「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて協議を行う(継続)。
- ① 「地域生活支援拠点」における「体験の機会・場」の機能について、地域生活・地域移行支援の一助となるミドルステイの進捗を引き続き把握し、有用性や効果について検討を行う。
 - ② 精神障害に関する普及啓発について、対象や方法等を引き続き協議する。また、若年世代への普及啓発について、養護教諭連絡会を皮切りに教育部門における課題をアンケート調査等を実施した上で検討する。
 - ③ 精神障害当事者からの生活状況やニーズ等のヒアリングを行い、今後の課題を抽出し、施策・制度への反映を模索する。また、ピアサポーター育成を含む、当事者の活躍の場の拡充について検討する。
 - ④ 地域生活・地域移行を行う中で必要となる「住まい」に対する居住支援の実態について、現状の把握を行う。
 - ⑤ 地域移行支援等連絡会において作成した「退院(支援)意欲喚起のためのツール」を用いて退院支援の体制構築を進め、精神科病院へのアプローチを重ねつつ、そこにとどまらない普及啓発について検討する。

活動内容及びスケジュールなど

	日にち	内容
地域移行等支援連絡会①	4月23日(金)	・近隣市精神科病院との連携について ・相談支援事業所連絡会との事例検討コラボ企画について ・退院(支援)意欲喚起動画(第1・2段)の使用方法について ・ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)について ・個別ケースについて
地域移行等支援連絡会②	6月4日(火)	・ミドルステイ事業の進捗確認 ・市内の小中学校養護教諭連絡会への参加報告 ・市内の居住支援の実態確認に向けて ・相談支援事業所連絡会との事例検討コラボ企画について ・ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)について ・個別ケースについて ・令和6年度第1回精神保健福祉部会について
病院訪問①	6月18日(火)	・院内におけるピアサポーターの活用について ・相談支援事業所連絡会との事例検討コラボ企画について ・市民入院者の個別ケース共有 ・ミドルステイ事業への意見聴取 ・ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)の周知
第1回	6月21日(金)	・新旧部会員の交代と昨年度の振り返り ◆今年度の協議内容について ①「地域生活支援拠点」における「体験の機会・場」の機能について ⇒ミドルステイの進捗を共有し、有用性や効果に係る課題等の整理 ②精神障害に関する普及啓発について ⇒養護教諭連絡会の報告と、連携に向けた研修パッケージ作成について。 ③当事者の活躍の場の拡充について ⇒精神科病院におけるピアサポーターの活用を進めていく ④居住支援の実態について ⇒市内で活動している居住支援団体の活動を伺い課題等の整理をしていく
地域移行等支援連絡会③	7月10日(水)	・近隣市精神科病院との連携について ・小中学校への普及啓発における研修パッケージ作成について ・ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)について ・個別ケースについて
スキルアップ研修(地域移行)	7月25日(木)	◆地域移行支援 in 国分寺「居住の場で行われている支援について」

地域移行等 支援連絡会④	8月23日 (火)	・ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）の振り返り ・近隣市精神科病院との連携について ・個別ケースについて ・地域移行支援対象者の把握について ・第一回精神保健福祉部会について
病院訪問②	9月5日(木)	・院内におけるピアサポーターの活用について ⇒年内に病院職員向けピアサポート活動有用性についての研修を行う ・相談支援事業所連絡会との事例検討コラボ企画について
第2回	9月20日 (金)	①「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」と地域生活支援拠点の運動について ③当事者ヒアリング実施に向けて（当事者の活躍の場の検討を含む） ⇒武蔵野市 NPO 法人ミューより「こころの健康支援事業」の報告を聞くことに ④市内の居住支援の実情の把握と課題に向けた検討について ⇒居住支援団体の活動を基に、引き続き、課題検討を行っていくことに

成果・活動から見えてきたことなど（課題整理）

◆地域移行支援等連絡会を定期的開催することにより、近隣市の精神科病院との連携をどのように行っていくか、普及啓発に向けた準備をするにはどうしたらいいか等々を検討することができた。昨年度・一昨年度と作成した「退院(支援)意欲喚起のためのツール」は、精神科病院以外にも精神障害以外の障害の方は、自立したいと考えている市民の方にも使ってもらえるのではないか、という話があった。使用する場の拡充も検討していきたい。 ◆近隣市の精神科病院との会合も回を重ねるごとに有益な機会となってきた。今年度は、当事者の活躍の場の拡充に向け、コロナ禍以前、病院内で行われていたピアサポーター活動の再開の話を進めることとなった。まずは、改めてのピアサポーターの活用の有効性を伝えるための病院向け研修を行うこととなった。その他、引き続き、入院されている市民の方の動向も共有し、地域移行支援を行い、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進めていきたい。 ◆普及啓発について、近隣市で行われている学生に向けた精神保健福祉の啓発活動を参考に、市内でも小中学校等に向けた活動が行えないか引き続き検討を行っている。依頼が入った際に使用できる、研修パッケージの作成を視野に、今年度は武蔵野市にある、NPO 法人ミューが行っている「市民こころの健康支援事業」のインタビューを行う調整をしていく。 ◆「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」において重要な機能を担う地域生活支援拠点の充実に向けて、今年度より開始されたミドルステイの利用状況から、その有用性や効果を検証し、安定した地域生活のための支援方法の拡充を見出していく。 ◆市内の「居住支援」における現状をヒヤリングした中で、改めて、生活の基盤となる「住まい」に対する支援体制構築の重要性を認識することができた。市内において、どのような形の居住支援体制が必要か、引き続き課題を抽出し、提言していく。

今後の活動予定

	日にち	内容
第3回	2月7日(金)	②今後の精神障害に関する普及啓発活動について ③当事者ヒアリングの実施 ⇒生活状況の把握・要望の聞き取り・ピアサポーター等の活用に関する意見聴取 ⑤地域移行等支援連絡会の活動報告ならびに今後の活動について ◆次年度に向けての課題・取組について
地域移行等 支援連絡会	月1回開催	◆退院意欲・退院支援意欲喚起のためのツール普及に関する検討 ◆ピアサポーターに関することや、普及啓発に向けた検討 ◆精神科病院との連携強化のための訪問及び意見交換の実施 ◆個別ケースの共有、退院支援に向けた検討など